



日本救急救命学会

# JSELS

## newsletter

Japanese Society for emergency life-saving

第7号

令和4年12月1日

一般社団法人 日本救急救命学会 事務所 〒164-0001 東京都 中野区 中野2-2-3 (株)へるす出版内  
E-mail:info@jsels.jp URL:https://jsels.com

## 第8回日本救急救命学会学術集会 御礼

謹啓

皆様におかれましては、益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。平素より、格段のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

第8回日本救急救命学会学術集会におきましては、格別のご指導とご支援を賜りまして誠に有難うございました。

お陰様で、今回、現地参加者122名、web参加者236名、合計357名のご参加頂き、これまでの大会で最も多い参加者となりました。

また、協賛企業12社、展示企業3社の参加を頂きました。これもひとえに皆様のご協力とご支援の賜物と、心より御礼申し上げます。

今回のテーマは、「前へ」としました。前に進むことで救急救命士の残した道ができると思います。しかし、道を進むには羅針盤が必要です。救急救命士が研究を実施し救急現場学としての構築をすることが羅針盤のひとつと考えます。

大会長講演は、今後の救急救命士の羅針盤の方策を講演しました。

教育講演は、京都橘大学 平出教授から「救急救命士の研究手法」として救急救命士の研究の方法の一助となる講演を頂きました。

パネルディスカッションを2つ設けました。

「パネルディスカッション1.「前へ」進むための手法-救急救命士による研究手法 各機関の取り組み-」研究の端緒、研究の進め方、組織との関係等、ディスカッションができたのではないのでしょうか。

「パネルディスカッション2 病院救命士を有する医療機関とMCとのかかわりについて」各病院における救急救命士の教育や活動していること、今後の研修や方策など課題が山積していることが判明しました。

一般演題は、5演題の発表があり様々な研究や事例の発表がありました。特に学生の研究は特筆すべき研究であると考えます。今後は、規約の改定を含めて学生セッションの場を設けられればと考えます。

学術集会の運営にあたりまして、不行届きの点も多々あったかと存じますが、何卒、ご寛容下さいますようお願い申し上げます。

本来なら、拝眉のうえ御礼を申し上げなければなりません、が略儀ながら書状をもって学会終了の御報告と御礼を申し上げます。

大会長 関根 和弘  
京都橘大学健康科学部救急救命学科  
京都橘大学大学院健康科学研究科  
教授 Ph.D

## 会員募集中

名称 一般社団法人日本救急救命学会

設立年月日 2014年5月30日

主な活動

- ・ 学術集会の開催
- ・ 会員向けワークショップの開催
- ・ 救急救命士及び病院前救急医療に関する調査・研究、教育と普及・啓発
- ・ 会員相互の情報交換及び機関誌の刊行
- ・ 国内外における関係諸団体との交流
  - ・ 日本臨床救急医学会メディカルコントロール検討委員会への委員の派遣
  - ・ JPTEC協議会への役員の派遣
  - ・ 民間救命士統括体制認定機構への理事の派遣など

会員区分

- ①正会員本法人の目的に賛同し、所定の入会手続きにより入会した救急救命士の資格を有する個人。
- ②賛助会員本法人の目的に賛同し、事業を賛助するために、所定の入会手続きにより入会した医師、看護師などの医療職種、または救急隊員資格を有する個人。

③名誉会員本法人の発展に特に功労のあった者で、理事会より推薦され、評議員会の承認を得た個人。

④協賛会員本法人の目的に賛同し、事業を支援するために、所定の入会手続きにより入会した個人又は団体。

会員登録

**入会金5,000円 年会費5,000円**

(協賛会員団体50,000円/口)

会員登録は専用フォームからお申込みください。ご登録頂いたご住所に振込用紙を送付致しますので、入会金・年会費をお振り込み下さい。

お振込が確認できた段階で会員登録致します。

会員登録作業は月2回のため、お待たせすることがございます。また、お振込確認後の会員登録が完了した旨の連絡は致しませんので、ご了承下さいますようお願い申し上げます。

日本救急救命学会  
会員申し込み専用フォーム



## 第8回日本救急救命学会学術集会を振り返る

開催日時：令和4年10月22日（土）9時00分～16時00分

会場：京都橘大学（京都市山科区大宅山田町34）

方式：対面およびWEB（Zoom ウェビナー）による中継

テーマ：前へ～救急救命士の進むべき道～

会長：関根和弘（京都橘大学健康科学部救急救命学科、京都橘大学大学院健康科学研究科）



■会長講演

■教育講演 救急救命士の研究手法

演者：平出敦（京都橘大学健康科学部救急救命学科）

■パネルディスカッション①（救急救命士の研究）

テーマ：「前へ」進むための手法

▷パッシブからアクティブに～学会発表、論文作成及び医学的研究を積極的に行うためには～ 杉谷宏樹（日高広域消防組合）

▷出雲市消防本部における救急救命士の研究に対する意識調査 吉井友和（出雲市消防本部）

▷救急業務に携わる者が調査研究に強い関心を抱く手掛かり 山本健太郎（東洋大学大学院ライフデザイン学研究科博士後期課程）

▷都内三次医療機関に勤務する大学院博士課程救急救命士の視点から 北野信之介（日本医科大学多摩永山病院）

▷VR導入への道のり～未知なる機材の活用法と道なるカリキュラムの創造～ 中島秀明（湘央学園）

する因子の検討 桂原貴志（国士舘大学大学院救急システム研究科）

▷救急救命士養成課程の学生におけるパーソナリティ特性の傾向 武藤好美（明治国際医療大学）

▷医療教育におけるロールモデルの概念＝我が国の先行研究から＝ 高橋 司（明治国際医療大学）

▷救急救命士法改正における相澤病院の取り組み 吉村祐平（相澤病院）



■パネルディスカッション②（病院救急救命士とMCをつなぐ活動）

テーマ：病院救命士を有する医療機関とMCの関わりについて

▷病院救急救命士の研修体制構築への取り組み 齋藤汐海（宇治徳洲会病院）

▷訪問診療クリニックに所属する救急救命士が機能した搬送症例 池田優介（大江戸江東クリニック）

▷医療機関で勤務する救急救命士とMCとの関わりについて 古賀司（米盛病院）

▷三次医療機関で働く救急救命士とメディカルコントロールの関わり 佐藤友子（済生会熊本病院）

▷救急救命士の社会的強みは認知されていない 西岡和男（熊本市市民病院）

■次回会長挨拶・閉会の言葉 閉会



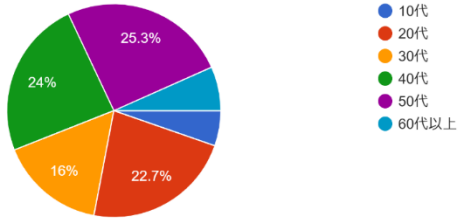
■一般演題

▷2021JPTEC 学術部会活動報告書 若松淳（弘前医療福祉大学）

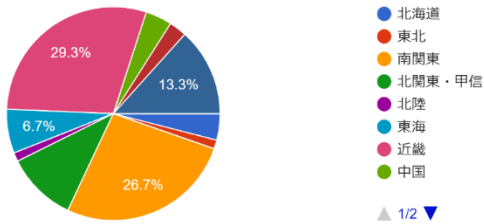
▷救急救命士養成課程における静脈路確保の成否に関

終了後Webアンケート集計結果 n=75

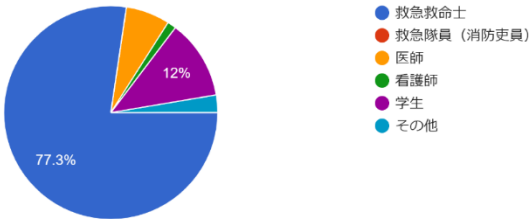
年代  
75件の回答



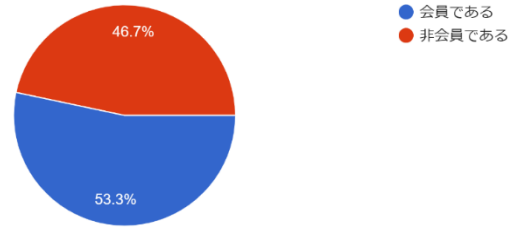
地域  
75件の回答



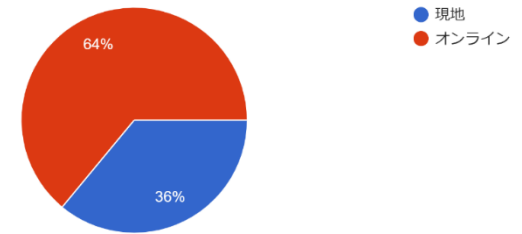
医療資格  
75件の回答



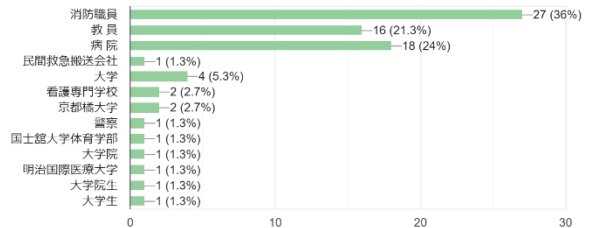
日本救急救命学会会員情報  
75件の回答



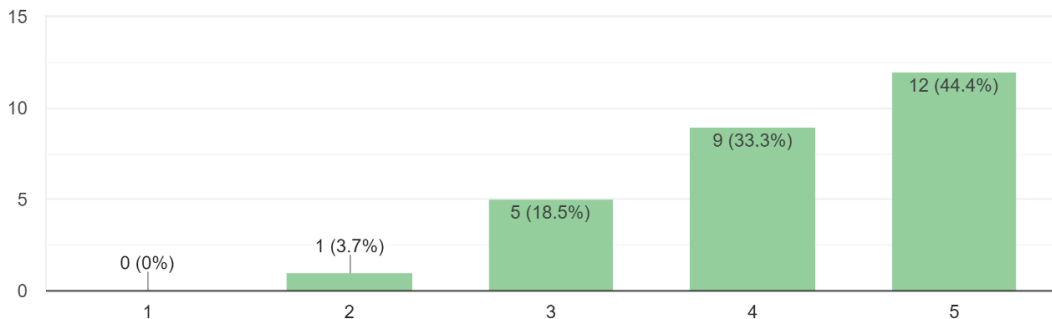
本学術集会参加方法について  
75件の回答



ご所属について  
75件の回答



全体の満足度について  
27件の回答





## ●西岡 和男

日本救急救命学会教育研修委員長／評議員

受講者の行動を変えるインストラクション。ここからは、講習プログラムの1例を紹介してゆきたいと思えます。今回ご紹介する講習プログラムは、比較的に依頼の多い約1時間程度の心肺蘇生法で自治会等の一般的な市民の受講者を想定したケースです。最終的に受講者行動意欲を高める、というところにこだわったプログラム構成の紹介です。使ってみると、いろいろな講習に応用が効く組み立てであることに気づいていただけたと思いますので参考にしてみてください。

### ◆最初に講習の終わり方を考える

プログラムの構成を考えると、最初に講習の終わり方を考えることが重要です。最後に最初に？と思った人もいらっしゃるかもしれませんね。私は「救急講習はエンターテイメントだ」と考えています。救急講習は、自分が作り上げる舞台でもあり、そこに足を運んで参加する人たちの感情を動かす、楽しい時間をすごしてもらおうという点では、芸能や映画、音楽にも通じることだからです。

皆さんは映画やドラマの最後が、期待と違って残念な思いをしたことってありませんか。ドラマのエンディングは、それを見た人の心にどのように刻まれるかということに大きな影響を持っているものです。救急講習も同じで、講習の最後に「今日の講習で伝えたかった事を明確に示すこと」が講習の成否に大きく影響します。一方で、エンディングにどんなに良いネタを用意しても、講習の中身、とエンディングのネタが繋がっていないとその時間の中で何を伝えたかったのか、ということがぼやけてしまいます。だからこそ講習の構成は、最初に、「最後に伝える、今日の講習で伝えたかったこと」を決めて、講習全体を伝えたいことにつながってゆく構成にすることが最も大きなポイントです。人の心を動かし、受講者の行動を変えるためには一番大切にしたい点です。

### ◆講習でもっとも伝えたいことはなにか

心肺蘇生法のガイドラインでは「心肺蘇生法ができるようになる」ということが最終的な到達目標だと思います。

しかし、依頼される講習の多くは、参加者数に対して講習時間が短く、参加者全員が「心肺蘇生法ができるようになる」というGOALは、かなり高いハードルであることが多いものです。それでも、がんばって心肺蘇生法の定番要素を満載してしまうと、講習を受けた受講者が消化不良を起こしてしまいます。そんな状況で「忘れたりするので、繰り返し受けましょう」ということを伝えられた受講者のことを思うと、再受講の必要性は理解できても「講習を受けても、忘れるものなんだ」という暗示を受けたり「また受講しなければいけない」という負担を感じたりする人が出てしまうように思います。

講習で何を伝えると良いかは、講習の依頼者から、受講者の皆さんがどのような人たちで、どのような思いをもって集まるかという情報にヒントがあるということをお話しました。その人たちにどんなエンディングを用意したら伝えたいことが刺さるか。いろいろ工夫してみると講習内容の幅が広がります。

### ◆短い時間の救急講習で

一般的な講習の場合、ひとり一人の実技に割ける時間が限られているので、CPRをちょっと体験してみよう、という感じになるのもいたしかたないところもあります。しかし講習の組み立て方次第で、受講者が講習を終えたときに、何かあったら手当をやってみよう。また講習会に参加したい。という前向きな気持ちになるプログラムにすることは可能です。

### ◆L I V Eを楽しむ

救急講習のビデオや本は、いろいろな人が利用するので、一定の内容を網羅する必要があります。一方でL I V Eの講習は、そこに集まる人たちの知識や経験、要望に合わせて内容を取捨選択できるというところが決定的に異なります。すでに理解していることは省略する、足りていないと気づいた所は丁寧に補足する。そのように掛け合いをしながら進める講習会は、受講者だけでなく指導に立つ私たちも、そこから多くの学びを得ることが出来ます。

### ◆いきなりシミュレーション

非常に効果の高い方法の一つとして、いきなりシミュレーションに挑戦してもらおう。講習の最後に同じようなシミュレーションに挑戦してもらおうことで、短い講習でも多くのことができるようになる、ということに気づいてもらおう。という構成です。講習を受けたことで気づいたことや出来るようになったことは、人それぞれで異なるものです。この構成の強みは、参加したことの結果について細かな説明をしながらも、人それぞれが参加した成果を自分で気づき、それぞれの達成感を得ることができる点です。説明もしないうちから、いきなりシミュレーションに挑戦してもらおうのは乱暴だ、という意見もありそうですね。確かに、やり方を失敗すると最初から受講者の気持ちをへこませてしまうかもしれません。

### ◆受講者の力を信じること

インストラクションの大きなポイントの一つは、受講者の力を信じることです。指導者の気持ちが丁寧な指導に傾いていると、受講者の背中に多くの指摘を積み上げてしまっていることがあります。受講者の皆さんは、私たちが思っている以上に自分で解決できる力を持っているので、過剰な手助けをする必要はありません。失敗もまた成長のチャンスです。いきなりシミュレーションに挑戦してもらっている時には、細かな指摘や過剰な手助けは必要ありません。それよりも受講者の挑戦している姿や勇気を、後押ししながら見守っているという姿勢をはっきりと示すことが重要です。そうすることでシミュレーションの挑戦者や参加者の気持ちがへこんでしまうような失敗をすることはありません。あなたを信じているという姿勢は、講習で大切な要素です。

今回は、一般市民の力について話したいと思います。お楽しみに。

ご意見感想をお待ちしています。

teate.inst@gmail.com

## 救急救命士ジャーナル 第7号のお知らせ

日本救急救命学会準機関誌「救急救命士ジャーナル」第7号のお知らせです。今号も皆様に興味をもっていただける特集や記事を精力的に掲載いたしました。当面、学会員には無料配布を予定しております。是非とも、この機会にご入会くださいましてジャーナルをその手に取って頂きたいと思っております。会員皆様からの論文も随時受け付けております。掲載される論文の質と学会誌としての信頼性を保つよう、査読者による査読システムを採用しております。これまで投稿先がなく、半ばあきらめていた救急救命士の方々も胸を張って投稿いただけます。詳しくは救急救命士ジャーナル投稿規定、またはオフィシャルサイトをご覧ください。

一般社団法人  
日本救急救命学会準機関誌  
Journal for Emergency Life-Saving Technician



# 救急救命士が作る 救急救命士のための 救急救命士 ジャーナル

年4回発行  
編集発行人/佐藤 枢 発行所/株式会社へるす出版

## 第7号の目次（予定）

- ◆特集：大学院で学ぶ救急救命士たち
- ◆進取果敢；全国各地、新たな取り組みを紹介！  
今回はオートショックAEDについて特集します
- ◆救急救命士図鑑；いろんな救急救命士をピックアップ コロナ禍の保健所での救急救命士の役割
- ◆新シリーズ 医療機関に勤務する救急救命士
- ◆巨人の肩の上に立つ；救急救命士が読み解く海外の最新論文

- ◆経験伝承；救急現場のコミュニケーション
- ◆外傷病院前救護の現状 from JPTEC；骨盤骨折に対する処置に関する文献の検討
- ◆学会員の声 テーマは「心に残っているROSC」
- ◆投稿論文

2022年12月20日発行 定価1,650円（本体1,500円+税）  
へるす出版のサイトからご購入いただけます

## 救急救命士ジャーナル投稿論文を振り返る

救急救命士ジャーナル第6号には投稿論文「黒崎久訓：四年制大学救急救命学科に所属する学生の研究に対する意識と今後の課題についての検討」が掲載されました。

内容は次のとおりです。

---\*---\*---

四年制大学救急救命学科の学生195名を対象に研究や統計学に関するアンケートを実施した。40.7%が「今後研究を行いたい」「研究を行う能力は救急救命士にも求められると思う」と回答した。反対に、29.3%の学生が「研究を行いたいと思わない」「研究は難しそう」と回答した。研究に行いたいと回答した学生ほど、統計学を学ぶ、大学院への進学、教育者としての道を考えていた。

---\*---\*---

救急救命士の研究能力は、他の医療職種に比して高いとは言えず、むしろ学問に対してはパツパツな印象があります。それは、救急現場学の構築において主体となって進めなければならぬ消防職員の環境がネックとなってきたからでしょう。本業以外に時間がさけない、研究に対して指導者がいない、研究を行ってもインセンティブが無いといったことが起因していると思われる。

この度の救急救命士法改正も相まって、救急現場学のフィールドは医療機関内にまで広がりました。今まで教育機関に属する救急救命士が、なんとかかけん引してきた救急現場学も、医療機関に属する救急救命士が後押しすることで全体の機運が上がり、消防の救急救命士を取り巻く環境や意識の変革が起きるのではないかと期待しています。

この論文の中に、看護学生を対象として研究結果も引用されていました。学生が学術集会へ参加することで、看護研究が肯定的なイメージへと変化していくというものです。第8回日本救急救命学会のパネルディスカッションでも、学術集会への参加経験を有する消防職員は学会発表や研究に前向きだったとする報告がありました。

まずは、学術集会への参加を促し、決して発表することや研究することが、とてもハードルの高いことではなく、これだったら自分もできるかなと感じてもらうのが大切でしょう。約3割の大学生も、学術集会に参加することで意識の変化はきっと期待できます。そして、志の高い大学生のまま就職された若者の、ピュアな気持ちを折らないよう、自分も肝に銘じておきたいと思っております。（T.Ichiryu）

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

### 1. 名称

名称は、救急救命士ジャーナルとし、本誌の英文名は「Journal for Emergency Life-Saving Technician」とする。

### 2. 目的

本誌は日本救急救命学会の準機関誌であり、救急救命学の進歩と発展に寄与することを目的とする。

### 3. 投稿資格

- 1) 筆頭著者は本学会の会員に限る。ただし、編集委員会が寄稿を依頼した場合は、その限りではない。著者の人数は10名以内とする。
- 2) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」に必要事項を記入して添付すること。

### 4. 論文の受付

論文の受付には以下の要綱を満たす必要がある。

- 1) 著者の人数が10名以内である。
- 2) 8. 文章執筆要領に則した記述である。
- 3) 投稿論文は二重投稿ではない旨を明記した「誓約書」及び、申告するCOIがある場合はCOI 申告書を提出している。

### 5. 論文の採否

投稿論文の採否は編集委員を含む3名で査読後、編集委員会の審査によって決定し、採用となった場合はその日をもって受理年月日とする。

### 6. 投稿内容

- 1) 本誌への掲載は救急救命士及び救急救命の領域の論文とする。
- 2) 論文は国内で未発表のものに限り、二重投稿は禁止する。ただし、海外で日本語以外の言語で発表した論文を日本語で記載しなおした場合は二重投稿とはみなさないが、著作権の保有者に使用許諾を得ていること、及びその場合の論文カテゴリは、「資料」とし最初の論文の掲載誌を明記する。

### 7. 投稿論文の種類

論文の種類は、総説、原著、調査・報告、症例・事例報告、資料・その他とする。

#### 1) 総説

多面的に国内外の知見を集め、文献調査に基づき、総合的に学問的状况を分析・概説し、考察したもの。

#### 2) 原著

論文の体裁(目的・対象と方法・結果・考察)が整っており、研究内容に新規性、独創性があり、方法の信頼性、妥当性が高く、その知見が論理的に示されており、学術的価値の高いもの。

#### 3) 調査・報告

独自に行った調査等の結果をまとめ、報告並びに解説したもの。

#### 4) 症例・事例報告

単独または複数の症例や事例をまとめ、考察を加えたもの。

#### 5) 資料・その他

編集委員会が適当と認めたもの。

### 8. 文章執筆要領

- 1) 原稿はパソコンの文書作成ソフト (Microsoft® wordなど) にて作成し、A4判横書きで、40字×30行で行ページ設定する。
- 2) 現代仮名遣いに従い、医学用語を除き常用漢字を用いる。
- 3) 度量衡の単位はCGS単位を用いる。
- 4) 統計処理を行った時は、統計学的検定法を明記する。
- 5) しばしば繰り返される語は略語を用いてよいが、初出の時は完全な用語を用い、以下に略語を使用することを明記する。(例) 心肺停止 (cardiopulmonary arrest、以下CPAと略す)
- 6) 図、表、写真の引用は該当文章の末尾とする。
- 7) 原著の本文は、はじめに、目的、方法、結果、考察、結論の順位に記述する。
- 8) 症例・事例報告の本文は、はじめに、症例、考察、(結論)の順に記述する。
- 9) 論文の本文には頁数を付す。
- 10) ランニングタイトルは20字以内とする。

### 9. 和文要旨

400字以内の和文要旨をつける。

### 10. 索引用語

原則として日本語とし、総説、原著、調査・報告は5個以内とする。索引から目的の論文を確実に検索できるようなものを選択する。

### 11. 字数制限

原稿は本文、図表、写真、文献を含めて12,000字以内とする。図、表、写真は縦5cm×横7cmに縮小印刷が可能なもの1点を400字相当と換算する。

### 12. 図、表、写真

- 1) 図、表、写真には図1、表1、写真1などそれぞれに通し番号をつけ、日本語でタイトルを表記する。
- 2) 写真は解像度が高いものが望ましい。
- 3) 本文内に図、表、写真、の挿入箇所を示したうえで、用紙1枚に1点とし、「図、表、写真番号、」「タイトル」「説明文」を記載する。
- 4) 元データがある場合は提出する。
- 5) 図、表、写真等を引用・転載する場合は、著者自身が著作権者の了解を得た上で、出所を明記する。
- 6) 図表は原則としてモノクロとする。カラーでの掲載を希望する場合はカラー掲載料を著者が負担する。

## 救急救命士ジャーナル投稿規定

## 13. 文献

- 1) 文献は本文中に上肩付した引用番号順に配列し、20編程度とする。
- 2) 著者は筆頭著者から3名までは明記し、それ以上は「他」または「et al」とする。
- 3) 雑誌名略記は医学中央雑誌刊行会・医学中央雑誌収載誌目録略名表及びIndex Medicusに準ずる。

## 4) 文献記載例

<雑誌>

引用番号) 著者名: 題名, 雑誌名 発行西暦年;  
巻: 頁-頁.

- 1) 片山祐介, 北村哲久, 清原康介, 他: 救急電話相談での緊急度判定で緊急度が低かった救急車出動事例の検討. 日臨救急医学会誌 2018; 21: 697-703.

- 2) Kinoshi T, Tanaka S, Sagisaka R, et al: Mobile Automated External Defibrillator Response System during Road Races. N Engl J Med 2018; 379: 488-489.

<単行本>

引用番号) 著者名: 分担項目題名, 編者名, 書名.  
(巻). (版). 発行所, 発行地, 西暦年, p頁-頁.

- 1) 鶴飼卓: 阪神・淡路大震災. 鶴飼卓他編. 事例から学ぶ災害医療. 南江堂, 東京, 1995, pp35-48.

<WEB サイト>

引用番号) サイト機関: ページ名.(改行)URL(最終アクセス日: yy.mm.dd)

- 1) 総務省消防庁:平成30年度版救急救助の現況.  
<https://www.fdma.go.jp/publication/rescue/post7.html>(アクセス日: 2020.1.26)

## 14. 倫理規定

- 1) 投稿論文のなかで、臨床に関わるものにおいては、傷病者や被験者ならびに特定の個人の人権を損なうことのないよう、必要に応じて倫理委員会による審査を得るなどして、十分配慮されたものでなければならない。

- 2) 個人が特定される年月日などの記載は臨床経過を知るうえでの必要最小限にとどめ、プライバシー保護に留意すること。

- 3) 実験動物に関わるものにおいては、動物愛護の面に十分配慮されたものでなければならず、必要に応じてその旨を記載する。

## 15. COI (利益相反) の開示

全著者の投稿内容に関連する企業や営利を目的とした団体からの資金援助等の利益相反関係を開示しなければならない。

## 16. 校正

掲載直前の最終校正は著者校正とするが、その際、大幅な追加、削除は認めない。

## 17. 別刷り

- 1) 発注は10部単位とし、製作費の実費を支払う。
- 2) 注文は著者校正時に行う。
- 3) 料金の支払いをもって発注完了とし、発注完了後1か月を目途に納品する。

## 18. 論文の著作権

本誌に掲載された著作物の著作権は、著者と日本救急救命学会の両者が保持するものとする。

## 19. 原稿の投稿方法

- 1) 論文投稿は電子媒体のみ受け付ける。
- 2) 著者は、図表入り完成原稿、図表ファイル(PDF形式以外)、誓約書(書式A)を本学会事務局に電子メールによって送付する。
- 3) COIの申告がある場合には、「投稿時COI(利益相反)申告書」(書式B)を合わせて送付する。
- 4) 著者は査読結果が通知された後、論文に修正が必要な場合は、1ヶ月以内に修正した論文、および査読コメントの回答文を返信する。
- 5) 著者は採択後の校正作業を1ヶ月以内に行う。



学会オフィシャルサイトでは以下のドキュメントをダウンロードいただけます

日本救急救命学会  
オフィシャルサイト  
<https://www.jsels.com>



## 【誓約書・COI申告様式】

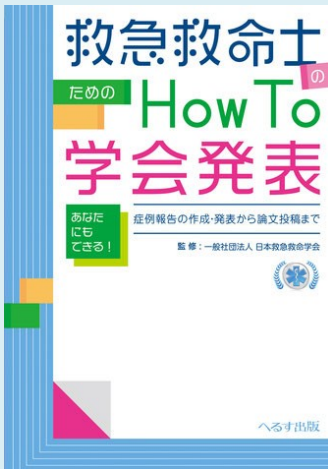
誓約書、および申告するCOIがある場合はCOI申告書をご記入ください。

## 【投稿論文の査読に関するループブリック】

査読者は投稿論文に対してこのループブリックの評価項目を元にして査読を行います。

## 【論文投稿の流れ】

論文を投稿された際の採択までの流れを示した資料です。ご参考にしてください。



学会で発表をしてみたい、でも何から手をつけてよいかわからない…。そんな救急救命士のために、テーマの見つけ方をはじめ、抄録や原稿の書き方、スライドの作成、学会での発表、さらに論文投稿までを実践できるよう、救急救命士の学会である日本救急救命学会の執筆陣が手ほどきします。

本学会はこれから研究や論文執筆に取り組みたいと考える救急救命士の方を、何らかの形でサポートしていく学会へと進化していきます。そのための第一弾です。

救急隊員としての救急救命士がよく経験する、「症例検討会」での発表をきっかけにして、プレゼンテーションの質を高め、研究会や学会発表というステップを踏んでいけるよう、症例報告を中心に解説しています。ぜひ、手に取っていただいて、症例報告や研究の第一歩を踏み出すためのきっかけにしてください。

これまで、独学で取り組んでこられた方にも、きっと新しい気づきがある一冊です。

★コンパクトなA5判ながら写真や図表を多く取り入れ読みやすい！★実務的な部分について、経験者の目線から具体的に解説！★検定方法の解説などでは、そのまま代入して利用できるよう消防組織でなじみのあるデータサンプルで提示★スライド作りの解説では、Before Afterで例示したり、少しのアレンジですぐに転用できるデザイン集を掲載

－目次－

Chapter 1 学会発表と論文投稿の勧め

I 学会発表（症例を報告）することの意義、II 論文投稿の目的とは

Chapter 2 症例報告から始める研究発表

I 現場の疑問を研究上の疑問へ変える、II 先行研究を探る、III 研究倫理を知る

Chapter 3 症例報告の基本構成

I タイトル、II COI、III 背景、IV 目的、V 症例、VI 考察、VII 結論

Chapter 4 必要最低限の統計学

I 統計解析とは、II データの形式、III 記述統計 IV 推測統計1（仮説検定）、V 推測統計2（回帰分析）、VI Excel で実践、VII 仮説検定とP 値の誤解、Column バイアスって何？

Chapter 5 誰もが見やすいスライドの作り方

I 「シンプルデザイン」とは、II 骨子を作る III ベースデザインを決める、IV 配色を決める V シンプルデザインを考える、VI 各スライドを作る

Appendix▼グラフの用途とデザイン▼用途別スライドと資料の作り方

Chapter 6 学会発表に向けて

I 学会に入会する、II 口述発表、Appendix▼ポスター発表▼Web 会議システムでのセッション

Chapter 7 論文を投稿する

I 学会発表と論文投稿の違い、II 論文投稿先を決める、III 査読とは、IV 論文を書くポイント

定価 1,980円（税込）

監修：一般社団法人日本救急救命学会

第1版・A5判・136ページ・並製

発行年月：2022年1月

ISBN 978-4-86719-032-6



## 編集後記

第8回を数えた学術集会を盛会裏に終えることができました。ハイブリッド形式で技術的な不安も抱えながらでしたが大きなトラブルもありませんでした。学術集会の運営形態の一つとして、いくつかの振り返りを得ることもできました。▶パネルディスカッションと一般演題を合わせると15の発表がありました。どれも考察の完成度が高く、新規性に富んだ内容で非常に見ごたえ（聴きごたえ）がありました。ぜひ、いくつかの演題は論文文化に挑戦してほしいと願っています。▶研究者としての第一歩は学術集会への参加です。学生の方々も多く参加いただきました。自分が興味を持ったテーマに確固と向き合うもよし、おぼろげながら将来の自分を見据えて症例報告をむさぼるもよし。未来の研究者となるべく若人の爛々とした眼がとても印象的でした。▶微力ながら実行委員をさせていただきました。貴重な経験をさせていただいたことを大会長はじめ、お誘いいただいた実行委員会の皆さんに、この場を借りて深くお礼申し上げます。（T.Ichiryu）